

第7回総合計画策定幹事会概要			
日	時	平成20年11月28日(金) 午後1時30～午後3時50分	
会	場	庁議室	
出	席	者	勇幹事長、加藤幹彦幹事、唄中幹事、平井幹事、山本勝彦幹事、田内幹事、入江幹事、守岡幹事、浅見幹事、中村好明幹事、山本芳一幹事

【議事】

1 草津市の現状と課題について（再検討）

事務局から説明。

≪意見等≫

- ・コンパクトシティの概念が消えてしまっているが、コンパクトシティの概念は必要。
- ・どういう都市を目指していくのかということがあって、その実現に向けての課題を整理するのか。それとも、白紙の状態からフリーで課題を出していこうとするものなのか。
- ・理想を導く方法としては両方必要ではないか。
- ・「子育て世代の集まる地域がある一方で、高齢化が進む地域がある」といった表現に違和感がある。草津市は「少子高齢化と異なって」と言い切れるのか。
- 状況の異なる地域、地区がある、ということである。モザイク上の地域特性をどう生かすのか、という観点から、こういった表現を使用している。
- ・地域による特性が異なり、同じ施策では対応できない点も、市の弱みにあたるのではないか。
- ・開発志向型の印象を受けるのは、くくりと表現の方法によるものである。「都市基盤」というハードなイメージでくくっていること。都市機能としては政治・行政、交通、教育・文化、医療・福祉、などがあるが、その記載がなく、産業の記載に偏っているからである。
- ・開発志向を否定すれば、人口増加力が落ち、都市の力が落ちる。専門的な分析がされていない。都市力の維持を検討しないのか。
- ・従来型の宅地を中心とした開発を進めれば、人口ばかりが増加し、行政やまちのサービスが追いつかない、といった感覚がある。そこで、開発と人口増加に調和をもとめたものである。
- 委員会の思いとしては、全国的に人口はどんどん減っているなかで、草津市としてもいつまでも増加は望めないという視点があってのことと考える。
- ・コンパクトシティというが、各小学区単位の生活が充実すれば、それで良いという考えの住人も少なくない。商業施設の充実地の集積は必ずしも必要とは限らない。JRの2駅を中心とするまちづくりを良しとするのか、それぞれの地域内での充実を良しとするのは議論が必要である。
- ・都市とはどういうものを指しているのか。どういったものが集まれば都市なのか、その概念の整理が必要である。
- ・都市力の中に地の利や地域力が含まれてしまっている。その辺りの整理が必要である。土地の財産のような視点も分けて整理する必要がある。まちづくりのくくりが、今後の大きなまちづくりの方向性と繋がるようにくくっているのであれば、今の段階でくくり方が重要にな

ってくる。ここで焦点が導かれるわけである。

- ・教育を含めた子育て支援の記載が必要である。まちぐるみ、地域ぐるみで「見守る」では足りない。支えあうなど、必要。
- ・今日の意見や、各部長からのいただく意見も含めて修正し、再度検討いただくこととしたい。特に、くくり方については事務局においても再検討したい。

2 まちづくりの理念について

事務局から説明。

《意見等》

キーワードについて

- ・協働については議論があるが、行政と市民の協働と、市民同士の協働もある。
- ・成熟したまちを作っていく、「充実」「成熟」といった意味の語句が必要ではないか。
- ・草津市の個性が出れば一番良い。
- ・草津市が良く言われる「活力」をさらに伸ばしていくような言葉はどうか。
- ・市民アンケートの結果を重視して良いと思う。「安全、安心、機能充実・・・」

都市ビジョンについて

- ・市民アンケートで回答の多かった「安全・安心」という言葉が入っていないが。防犯防災についても「安全・安心」であり、子供や高齢者の生活においても「安全・安心」、様々な意味で大切である。言葉の表現を変え、防犯で言えば、「夜中にひとりで歩けるまち」などを検討すると良い。
- ・草津市は県内他市町よりも「宿場」を打ち出している。これは大切にしたい
- ・この場でキーワードを出していただいたのち、下地となる案を作り、さらにたたいていただいて案を作っていく。2～3日中に、思いつくキーワードを出していただきたい。